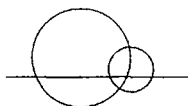


〈展示会〉



シカゴ大学における「東亜同文書院・東亜同文会雑誌記事データベース」の発表について

成瀬さよ子

2009年3月30日、アメリカのシカゴ大学レーゲンシュタイン図書館の5階のセミナールームにおいて、私は、東亜同文書院大学記念センター・オープン・リサーチ・センター（以後オープン・リサーチ・センターと略す）事業で、3年がかりで完成した「東亜同文書院・東亜同文会雑誌記事データベース」について、プレゼンテーションをする機会を得た。



これより先2008年7月の時点でオープン・リサーチ・センターでは、2009年3月26日～29日にシカゴにて開催されるアジア学会に「東亜同文書院」の展示会に出展することを決めた。これまで本学の霞山文庫の収蔵資料に魅せられて、度々訪問してくれたミシガン大学（アジア学会の本拠地）のライブラリアンである仁木賢司氏からアジア学会に出展しないか？との打診があったからである。毎年各地を巡回するアジア学会は、2008年度はシカゴのシェラトンホテルが会場となっていた。早速アジア学会のホームページにアクセスす

るが、全ての予約申込がインターネット上で行われ、しかも支払いが電子マネー決済となっていた。会場予約は、8月末となっていたためにあせったが、財務課長に伺ったところ電子マネーの処理が出来ないとの回答だった。仕方なしに毎年日本からアジア学会に出展している雄松堂書店、紀伊国屋書店、丸善、八木書店などの出版社を探し出し、やっと紀伊国屋書店東京の国際部（サンフランシスコ店の松岡氏）が本学の電子決済を代理で処理してくれることになった。これで会場は大丈夫である。初の海外での展示会は、日本からの荷物の送付など想像以上に大変な手続きが必要であった。送付先がホテルでは荷物を送っても受け取ってもらえないとの事。途方にくれていたが、幸いアジア学会に出展する雄松堂書店が見かねて、愛知大学の荷物の送付を一手に引き受けてくださったのである。

次に私はアジア学会で藤田佳久教授の英語での「東亜同文書院の大旅行」について発表の機会を得るべく、最初にミシガン大学の仁木さんに掛け合った。すんなりOKのお返事をいただいたが、その後仁木さんに次々にアクシデントが起こり、コンタクトが取れなくなってしまった。もし当方の関係者にアジア学会の会員がいれば、発表者の募集案内がメールなどで知らされていたが、残念ながら会員がいなかったために申込の時期を逸してしまった。アジア学会の運営委員であるハワイ大学のライブラリアンであるバセルトキコさんやイエール大学の中村治子さんにメールで講演の申

し込みをしたときには、全てスケジュールが決まっています、もう変更が出来なかった。これでは断念するしかなかった。

シカゴで開催されるアジア学会に出展が決まった時点から、私はシカゴ大学のレーゲンシュタイン図書館司書である奥泉栄三郎氏にコンタクトを取っていた。彼は歴史研究者でもあり、シカゴ大学の出版物のパンフレットには、顔写真付で資料紹介が載っていたので、国内外のライブラリアンや日本の出版社間でも有名であった。その彼が、愛知大学の積極的な活動を注目していたと言って、早速日本に調査に来た折に来学してくれた。2008年11月14日の事で、和田明美図書館長や藤田佳久東亜同文書院大学記念センター長、田本健一国際コミュニケーション学部長、栗原裕経済学部長など大勢の教職員が歓迎してくれた。

こうした経緯を経て、奥泉氏に講演をさせてほしいと申込むと、アジア学会が終了した翌日の3月30日にアジア学会「シカゴ日本情報フォーラム」称して、シカゴ大学レーゲンシュタイン図書館で藤田講演を1時間、さらに私にも30分プレゼンテーションの時間を提供してくれた。私は即座にデータベースのP.R.をしたいと申し出た。英語が不得意な私を慮って奥泉氏は「日本語のプレゼンテーションでかまわない。困ったときには、優秀な日系の大学院生が複数サポーターとしているので、安心して発表するように」と言ってくれた。

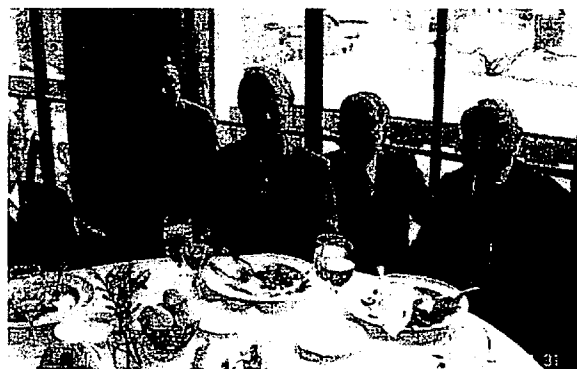
2009年2月、オープン・リサーチ・センターでは、大学の許可を得てオンデマンド版「東亜同文書院大旅行誌」全33巻1セットをシカゴ大学に寄贈することを決めた。これは私が職員提案制度を利用して、愛知大学60周年記念事業として復刻出版を提唱し認められたものである。業者選定から表紙のデザインなど一貫して任せられた初の図書館業務以外の仕事であった。2004年にオンデマンド版として10セット復刻版を作成して、学内関係各所に配布した残りは、海外の大学に寄贈してよいと決定された内の1セットである。

さて当日は無事にデータベースの説明を終えた。終了後質問や意見が相次いだ。アメリカでは、こうした東亜同文書院の雑誌などの古い資料を入手することが非常に難しいので、まずインターネット上で無料検索できることは素晴らしいことだ。しかしながら、愛知大学ではこうした貴重な資料をデジタル化していないのか？デジタル化していれば、インターネット上で全文が入手できるようにしてほしい等要望が出された。

これまでオープン・リサーチ・センターでは、東亜同文書院関係全所蔵雑誌の19種類の内、4種類の雑誌のデジタル化をしてきたが、残りの15種類は予算が無くデジタル化できなかった。愛知大学国際中国学研究センターは、COE予算を獲得した際に『支那経済全書』、『支那省別全誌』、『新収支那省別全誌』全39巻の全文データベースを作成しているが、残念ながらまだ公開には至っていない。今後の方向としては、東亜同文書院関係資料は、愛知大学の宝なので、デジタル化の予算を獲得して、インターネット上で全文が読めるよう大学に働きかけていきたいとして発表を終了した。

その後シカゴ大学で、日本から出かけた一行の歓迎会が開催され、スペシャルゲストとして南部陽一郎(シカゴ大学学内に住宅があり、2008年ノーベル物理学賞を受賞)先生が参加して下さった事は、一生の思い出となった。全て奥泉氏がお膳立てをしてくださったのである。

(成瀬は2009年4月に図書館から中部地方産業研究所へ異動した)



中央 南部陽一郎先生の右隣が奥泉さん、その隣が藤田教授

Japan Information Forum at Chicago (JIFAC)

◎ Shanghai
(Toa Dobun Shoin Univ.)

**The Development of Toa Dobun Shoin
College in Shanghai from 1901 to 1945
and Their Great Journeys for Regional
Researches on China**

◎ Toyohashi
(Aichi Univ.)



FUJITA Yoshinisa

Professor and Director of Toa Dobun Shoin, Waseda Univ.
Aichi University, Toyohashi (Spain)

3:00-4:00 p.m.

On the Data Base of Toa Dobun Shoin College
and University made by Aichi University

NARUSE Sayoko (Librarian of Aichi University)

4:00-4:30 p.m.

3:00-4:30 p.m. March 30, Monday
Legenstein Library Seminar Room 523 (5F)
University of Chicago

This English talk is co-sponsored by The East Asian Library and Committee on
Japanese Studies, Center for East Asian Studies, University of Chicago.